

「肥後六花」

1年を通して、グラフィックデザイナー友枝雄策氏による「肥後六花」をデザインモチーフとした表紙をお楽しみ戴きました。シリーズ最終回に当たり、「肥後六花」のミニ情報をお伝えします。

■「肥後六花」の特徴 共通する特徴として、一重咲きで、花芯の優美さ、花色の純粋さがあげられる。また、花形(かぎょう)といわれる花と茎葉との全体のつり合いと品位を重視。栽培、鑑賞方法も厳格に定められている。

■「肥後花菖蒲」 鉢植えにし、座敷に置いて鑑賞することを基本とする。よって横から見たときの美しさが重要。花は大きく花芯が立ち、花弁は3枚か6枚で大きく幅広い。純色のものほど優秀とされる。(花期 6月中旬)

■「肥後朝顔」 花は大輪で花弁(曜)は6~8曜。小鉢本蔓作りという独特の仕立て方で、本蔓を摘むことなく草丈を鉢の高さの2.5~3倍にとどめ、第一花をできるだけ低い位置に咲かせる。(花期 7月~9月)

■「肥後菊」 花は中菊の類に属し、一重咲きで平開する。3列からなる独特の花壇作りをし、菊の種類(色、形、大きさ等)によって植え込む位置も規定され、花壇全体の調和のとれた美しさを鑑賞する。(花期 11月下旬)

■「肥後芍薬」 花の形がよく整い、ハスの花のように花弁が離れ、大輪の一重咲きである。鮮やかな雄しべの黄色が盛り上がる。この盛り上がりが大きいほど良品とされる。(花期 5月上旬)

参考資料:誠文堂新光社「肥後六花選」

■次のところでは、季節ごとに肥後六花が鑑賞できます。

- ・熊本城内「肥後名花園」 熊本市本丸1-1 096-352-6820
 - ・熊本県民総合運動公園 熊本市石原町545 096-380-7599
 - ・熊本県鳥獣保護センター 御船町大字高木地内 096-282-2651
- ※肥後朝顔、肥後菊はありません。

さわやか〜ぜ

お便り募集

みなさんの身近な情報(出来事・季節の変化・風景・感想など)を200~400字程度にまとめてお送りください。(採用された方には「風テレホンカード」をプレゼント)



●あて先
〒862 熊本市水前寺6丁目18-1
熊本県広報課「くまもとの風」係
☎(096)382-9780

たくさんのお便りをお待ちしています。

愛読者募集

県では、県政広報紙KAZE(くまもとの風)の愛読者を募集しています。「くまもとの風」は、くまもとの新しい動きやユニークな人、県下各地の催物などを、写真やイラストを織り混ぜてお届けする広報誌です。あなたも、この機会に「くまもとの風」で素敵な出会いを体験してみませんか。

- 発行/偶数月発行 年6回 ■郵送料として/1,500円(郵便切手をお願いします。)
- お申し込みは/〒862 熊本市水前寺6丁目18番1号 熊本県広報課「くまもとの風」係

199204

編集後記

- 1年間様々な方取材して思うのは、行動することの大切さ。皆さん考えていることをきちんと行動に繋げているんだよね。(雅)
- 話を伺っていると、私たちにも出来ることって、結構あるわね。(郁)
- 環境問題、国際協力……言葉にするとかたく難しく思えるけれど、簡単なことから取り組めるんだね。(雅)
- いずれも熊本に住む、身近な人が活動していることなんかも。(郁)
- 私は「書き損じ葉書」集めとボランティア貯金からはじめようと思ってます(雅)。
- 食事を残さず食べる。これ、みんなが毎日できること。(郁)
- さっそく、今日のお昼から?(雅・郁)
- ところで、「くまもとの風」担当も今回でひとぎり。励ましやお叱りのお便り、ありがとうございました。これからは、「くまもとの風」をよろしくお願いします。(雅・郁)

表紙のことば 友枝雄策

いよいよ肥後六花の最後は、肥後芍薬の登場です。それにしても芍薬とは、変わった文字である。根が薬になる事から薬の文字がついているらしい。立てば芍薬すわれば牡丹にもある様に美しい派手な花だ。こうやって肥後六花をあらためて見て、肥後の先人の粋を感じることが出来た。

シーン'92 撮影のことば 長野良市

建物の展望台に立つと、いくつかの墳丘が目に入る。ここは、現在と過去との接点である。現代の古墳として設計された建物の半分は地下に沈められた。もうここからは、日常から離れて、延々と「古」から流れてきた時間を体験できる。

CONTENTS

- 1-2 小さな芽
- 3-8 対談〜教育〜
- 9-10 くまもと in the world〜民間の国際交流・協力〜
- 11-12 ママさんレポート〜環境問題〜
- 13-14 シーン'92〜熊本県立装飾古墳館〜
- 15-16 ふるさとをわたる風〜山口久臣さん〜
- 17-18 News Flash Kumamoto
- 19-20 肥後歴史散歩〜相良一族の説話〜
- 21-22 くまもと味な風景〜たけのこ〜
- 23-24 INFORMATION
- 25 HOT LINE, さわやか〜ぜ
- 26 くまもと美のたより

くまもと美のたより

県立美術館収蔵品から坂本善三作「形(紙)」

坂本善三(一九一〜八七)は阿蘇郡小国町に生まれ、県立大津中学校(現・県立大津高校)を卒業後上京。本郷絵画研究所、帝国美術学校(現・武蔵野美術大)で洋画を学び、第一回独立展入選以来連続出品し、昭和二十二年独立賞受賞。昭和二十四年独立会員推挙。

グレーを基調とする色調で、柵、御幣、鳥居、炎、城、格子などの日本的な形と心を追求する画風で知られた、わが国の代表的抽象画家の一人。昭和五十八年のパリでの個展では、「東洋の寡黙」、「沈黙の錬金術」などと国際的に高く評価された。

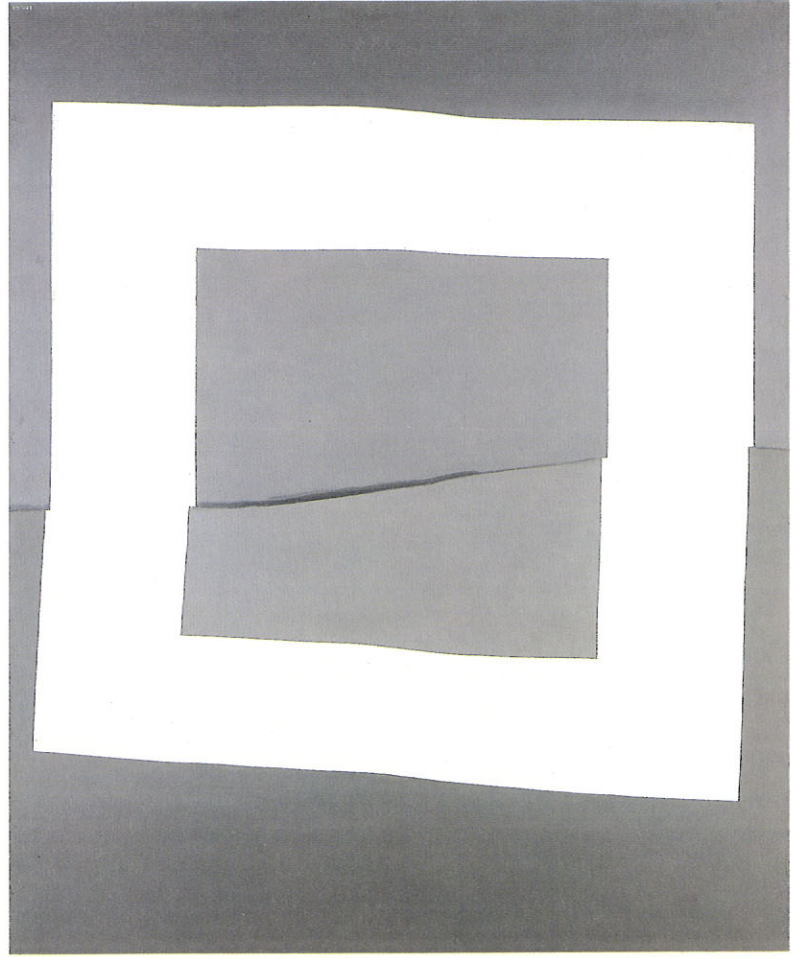
「絵のなかでモノの形や質を確かめるには灰色が一番いい。灰色には柔軟性があり、一方は白に、片方は黒に到達する。グレーの中にこそ明るいものが沢山あり、日本古来の黒には心がある」と、つぶや

き、熊本の自然と風土に育まれ、日本の心を独自の世界で表現した。

灰色の深い空間の中で、白い柵形が、突然地殻変動を起こす。ずれた断層は新たな空間と時間を生み出していく。そのずれは、人間の平穏な秩序と信頼関係を突如として崩壊させるかのようになり、人の無常を考えさせる。世の中は、生と死が隣りあっているように、一寸先は闇である。

「この絵の発想は何ですか」と、こつそり聞くと、「新潟地震です」と、クスツと微笑まれた亡き画伯の姿が絵の中で蘇り、無常を考えさせる。

(県立美術館学芸課長 坂田 燦)



形(紙)
1968年
油彩・キャンバス
199.4×161.7cm